

## 令和4年度 FD・SD ウィークの実施結果について（報告）

高知大学学び創造センター

### 1. FD・SD ウィークの趣旨と目標

【趣旨】教育改善に関する教職員の意識改革の一環として、従来の相互授業参観を見直し、各学部等5授業程度を選んで公開授業とし、授業参観の機会を増やす。これによって

- (1) 授業公開者の授業改善を行う。
- (2) 授業参観を通じて参観する側の教員が授業についての内省を通じた教育改善を図る。
- (3) オンライン授業に関するFDを兼ねるものとする。

#### 【目標】

##### (1) 授業公開教員

参観者から得たフィードバックをもとに、次年度以降の授業改善を行う。

##### (2) 授業参観教員

参観した授業から得られた気づきや新たな教授法などを参観者が内省し、自らの授業改善・教育改善に活かしていく。

##### (3) 職員

公開授業を参観することで、本学が行う教育の一端に触れ、日常の業務に反映させていく。

### 2. 実施期間と開講科目数

期 間：令和4年10月25日（火）～令和4年12月22日（木）

科目数：42科目（延べ82回開講 ※非同期のオンライン授業は1回として集計）

### 3. 参加者数（参観申込者数、授業参観記録登録者数）

本年度の、FD・SD ウィークの授業参観は、Web ページ上の集計で教職員合わせて延べ102人（教員60人、職員42人）の申し込みがあり、参観後の授業参観記録登録者数は延べ84人（教員48人、職員36人）であった。（昨年度実績：申込者129人（教員68人、職員61人）、授業参観記録登録者103人（教員47人、職員56人））

科目ごとの参観申込者数及びコメント登録者数（延べ人数）

No.	時間割コード	科目名	授業形態	参観申込者数			コメント登録者数		
				教員	職員	計	教員	職員	計
1	02013	文学と社会	オンライン非同期	4	1	5	4	1	5
2	02027	文化人類学入門	オンライン非同期	3		3	3		3
3	03003	憲法を学ぶ	オンライン非同期	1	1	2	1	1	2
4	04166	インタフェースデザイン概論	オンライン非同期	1	1	2	1	1	2
5	07005	キャリアプランニング I	オンライン同期・非同期	1	5	6	1	5	6
6	07159	業務効率化のための IT 活用入門	オンライン非同期	3		3	2		2
7	07160	ピア・サポート理論と実践	オンライン非同期	4		4	4		4
8	07161	キャリアプランニング	オンライン非同期	3	2	5	2	2	4
9	25094	専門英語 II	対面	1		1			
10	26133	アジア文化史 II	対面	3		3	1		1
11	26181	日本古典文学論 III	対面		1	1		1	1
12	28018	地方財政論	オンライン非同期	2		2	1		1
13	41019	家庭科概論	オンライン非同期	2	1	3	1	1	2
14	41021	初等体育 II	対面	1		1	1		1
15	42121	法律学各論	対面	1		1	1		1
16	42508	彫刻基礎	対面	1		1	1		1
17	42908	英米文学基礎演習	対面	1		1	1		1
18	49112	生徒指導・進路指導	オンライン非同期	2	1	3	1	1	2
19	51333	地域医療学	オンライン非同期	1	2	3	1	1	2
20	51347	臨床推論学	オンライン同期		2	2		2	2
21	51427	血液病学	オンライン非同期	1	1	2	1	1	2
22	51437	皮膚科学	オンライン非同期		3	3		3	3
23	52104	治療援助論(演)	対面		2	2		2	2
24	52213	成人看護援助論(演)	対面	1	1	2	1		1
25	60003	地域産業経済論	オンライン同期	1		1			
26	60055	里山管理論	対面	1		1	1		1
27	60056	地域産業政策論	対面・オンライン同期ハイブリッド		1	1		1	1
28	60070	地域防災論	オンライン非同期		1	1		1	1
29	71115	環論	対面	1		1	1		1
30	71627	量子物理学特論	オンライン同期	7		7	6		6
31	73107	細胞生物学	オンライン非同期	2	1	3	2	1	3
32	74118	細胞機能学 II	オンライン非同期	1		1	1		1
33	74126	有機化学演習	オンライン非同期	1	1	2	1	1	2
34	77110	耐震工学	対面	1		1	1		1
35	81018	食用作物学	対面	1		1	1		1
36	81071	森林資源循環利用学	対面	1		1			
37	81111	食料生産プロセス学	オンライン非同期		1	1			
38	81201	植物育種学	対面		2	2		2	2
39	82026	植物生育環境学	オンライン非同期	4	6	10	3	4	7
40	83021	海洋生物学概論	オンライン非同期	2	1	3	2		2
41	83127	水産食品原料科学	対面		2	2		2	2
42	83222	資源物質化学	対面		2	2		2	2
合計				60	42	102	48	36	84

#### 4. 授業参観記録

授業参観後に、参観者が Web 上で授業参観記録を作成した。その質問項目（記述コメントおよび選択回答）と回答の要旨を以下に示す。

##### 【教員】

**（１）参観した授業について、教員の授業方法や学生の学習形態等について、特に印象に残ったことはどんなことですか。（自由記述式）**

本年度は、オンライン授業 3 年目にあたることから、これまでと比較して、より具体的な意見が多くみられた。特に、本年度は、非同期型授業（オンデマンド型）の授業公開が多いことが影響し、非同期型授業にかかわる意見に集中していた。たとえば、動画以外のコンテンツの組み方（配布資料、課題の提示方法、小テストの方法）など授業デザインに関わる記述が多くみられた。

**（２）授業を参観して、あなたが実施している授業方法や学生の学習形態等についてあらたに気づいたことはどんなことですか。（自由記述式）**

この項目では、参観した教員は授業方法を取り上げながら、自己の授業方法の反省点を記述するコメントが多くみられた。具体的には、資料提示の方法、学生の思考への介入方法、説明の仕方、moodle のフォーラム機能の活用などについて記述されたものが多くみられた。この設問では、他の先生の参観授業を通して、自己の授業方法と比較し、内省的に振り返る記述が多くみられた。オンライン授業 3 年目を迎え、参観者のオンライン授業に対する意欲関心が高く、「少しでも、他の授業から、学びたい」という意欲が感じられるコメントが多くみられた。したがって、一定の成果を得られたと捉えることができる。

**（３）参観した授業での授業方法や学生の学習形態等で、自分の授業にも取り入れてみたい、あなたの授業に取り入れることが可能だと思うことはどんなことですか。（自由記述式）**

本年度も昨年度に続いて、非同期型の授業公開が多かったことから、非同期型授業に関わる記述が多くみられた。また、参観する教員も、非同期型授業についての関心の高さが窺える内容であった。記述の多くは、非同期型授業の 1 回の授業のコンテンツの組み方、提示方法、その他の学習教材の提供方法、小テストの実施など、記述も具体的なものがほとんどであった。記述を読むと、参観教員は、これまで以上に細部にわたって観察していることがうかがえる。また、その記述は、授業への導入を想定されたものがほとんどであり、行動につながるものになることが推測される。したがって、参観者のコメントの多くは、オンライン授業に関わるティップスがほとんどであった。

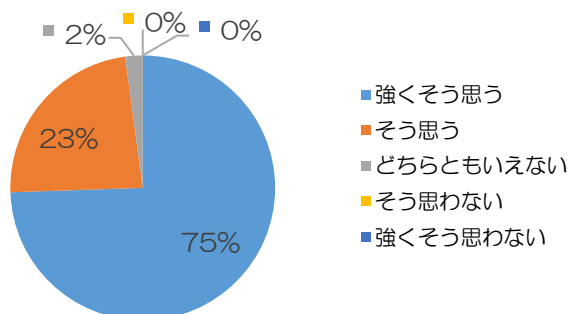
**（４）参観した授業の授業方法や学習形態について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。（自由記述式）**

本年度は授業のどこが良かったなどを具体的にコメントされたものが多くみられた。また、コメントされた方法を実際に自己の授業において導入したいというコメントが多くみられた。さらに、これらの意見は、同じ教員であるという立場からのアドバイスや助言的なコメントであり、肯定的な評価でもあることから、授業公開者にとって有益なものであったと考えられる。

**（５）この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。（5 段階択一式）**

昨年度の 94% を上回る 98% が肯定的な回答をしており、本取組は、意識改革に役立つものであったことが理解できる。

(5) この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。



	度数	割合
強くそう思う	35	75
そう思う	11	23
どちらともいえない	1	2
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	47	100

### 【職員】

(1) 参観した授業で、講義の教育方法や学習形態等について、特に印象に残ったことはどのようなことですか。(自由記述式)

本年度、公開された授業の半数程度は、非同期型授業であったことから、その授業にかかわる印象の記述が多く見られた。記述内容は、授業デザインの方法、授業資料の提示方法であった。また、オンライン授業の施行が3年目であることから、授業に関わる記述は、具体的な記述が多くみられた。例えば、授業の具体的な工夫に関わる記述、学生目線による記述である。

(2) 参観した授業で、学生の様子について気がついたことはどのようなことですか。(オンライン授業を参観された方は回答不要です)

本設問については、(非同期)オンライン授業の受講の場合は、学生の様子を確認することが難しく、コメントができない状況であった。よって回答が少なかった。

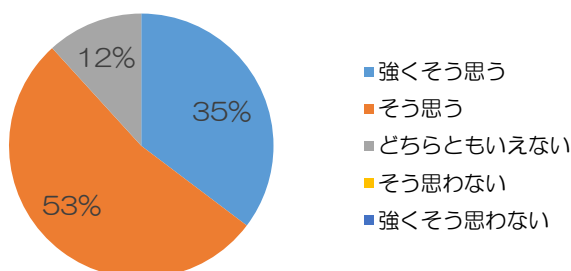
(3) 参観した授業について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。(自由記述式)

授業参観のお礼や、授業内容が有益であること、授業内容にかかわるコメントが見られた。また、例年の特徴と同様に、授業内容に関心があるとのコメントも多く寄せられていた。本年度はオンライン授業3年目であることから肯定的な回答の背景に、教員のオンライン授業の力量向上を示すものであるととらえることができる。本学のオンライン授業の良好さを示すものであるとも捉えることができる。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学習に適していると思いませんか。(オンライン授業を参観された方は回答不要です) (5段階択一式)

この設問に対して、88%が、肯定的な回答であった。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学修に適していると思いませんか。

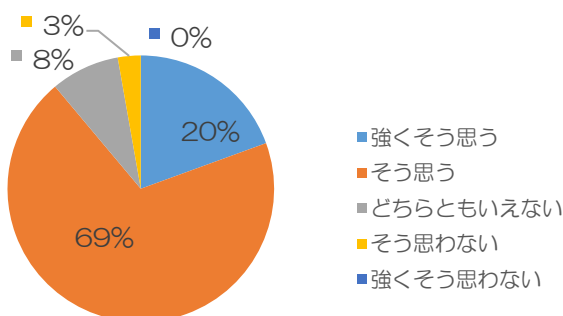


	度数	割合
強くそう思う	6	35
そう思う	9	53
どちらともいえない	2	12
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	17	100

(5) 授業を参観して、高知大学の教育（授業）を自らの業務に関連づけて考えましたか。（5段階択一式）

肯定的回答は89%であり、昨年度は70%であったことから、大きく向上していた。

(5) 授業を参観して、高知大学の教育（授業）を自らの業務に関連づけて考えましたか。

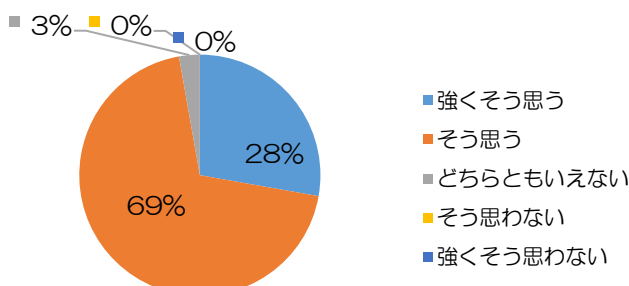


	度数	割合
強くそう思う	7	20
そう思う	25	69
どちらともいえない	3	8
そう思わない	1	3
強くそう思わない	0	0
	36	100

(6) この取組はあなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。（5段階択一式）

昨年度は85%であり、本年度は97%と向上していた。

(6) この取組は、あなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。



	度数	割合
強くそう思う	10	28
そう思う	25	69
どちらともいえない	1	3
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	36	100

(7) (4)～(6)の回答の理由や、来年度の本取組の実施に向けての忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせください。（自由記述式）

本年度の取り組みの半数が、非同期型授業の参観であったことから、非同期型授業の利点を評価するコメントが多くみられた。その利点とは、「いつでも視聴ができること」時間の制約がないことが、昨年と同様に挙げられていた。忙しい業務の中受講する職員が多いことから、今後の開催方法についても、非同期型の参観授業を一定数設置すること望ましいと考えられる。

## 5. 成果について

参観後のアンケート調査の結果から、本企画の趣旨や目標に対する成果として、次のようにまとめられる。

### 【授業参観教員】

授業参観の成果は、「あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか」という設問に対して、98%の肯定的な回答が寄せられており、本取組は、一定の効果を得ることができていると捉えることができる。肯定的回答の要因として、オンライン授業3年目を迎えて、他の教員の授業実践から、そのノウハウを学びたいと、本事業に対して期待を寄せていたと推測することができる。結果、参観後には、参観した授業の実践を学ぶことができ、自己の授業に活用できる知識であることから、肯定的な回答が多くみられた要因であると捉えることができる。しかし、本学の教員総数に対して、参観、コメント登録までを行った教員は、決して多い数値とは言えない。ゆえに、本取組の開催の告知などを改善する必要があると考える。

### 【職員】

本年度の成果は、「あなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。」という設問から捉えることができる。この設問に対して、97%の肯定的な回答を得ており、昨年度の85%から上昇しており、一定の成果を得られたと捉えることができる。

本年度は、非同期型授業の公開が半数であることから、時間を制約されることなく、授業を参観できたことが記述から伝わってきた。それにより、授業の細部にわたって確認されたことがうかがえた。例えば、授業資料、授業内の動画教材、授業デザインなどより具体的な意見が多くみられた。次年度以降も職員を対象として実施する場合、授業形態として、リアルタイムの授業だけではなく、一定数非同期型授業を入れることを検討しておく必要がある。

### 【全体】

教員設問（5）「この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。」、職員設問（6）「この取組はあなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。」のいずれも肯定的な回答は90%以上であることから、参観からコメント登録までを行った教職員にとって、本取組は有益であることが理解できる。しかし、上述のように、本学の教職員総数を分母とした場合、本取組の受講者数は決して、多いとは言えない状況である。よって、今後、受講者の増加に向けた取組が急務であると考えられる。